

秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略

(総合計画後期基本計画リディングプロジェクト)

平成 30(2018)年度評価報告書

令和元(2019)年 12 月

秦野市行財政調査会

目 次

1	はじめに	1
2	総合戦略について	2
3	評価の方法について	3
4	基本目標に対する評価	5
	基本目標 1 豊かな自然・良好な住環境づくりプロジェクト	6
	基本目標 2 未来につなぐ出産・子育てプロジェクト	8
	基本目標 3 安全・安心で人との絆を大切にするまちづくりプロジェクト	10
	基本目標 4 にぎわいと交流を創出する地域経済活性化プロジェクト	12
5	総括評価	15

1 はじめに

秦野市では、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第138号）第10条の規定に基づき、国の人口ビジョン及び総合戦略を勘案し、秦野市人口ビジョンで示した将来展望や目指すべき方向性の実現に向け、平成27年度から31年度までの5年間において重点的に取り組むプロジェクトをまとめ、秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）を策定した。

総合戦略は、秦野市総合計画後期基本計画において骨格を成すリーディングプロジェクトで構成されており、4項目のプロジェクト（基本目標）を掲げ、それぞれに「実現すべき成果に係る数値目標（KGI）」が設定されている。

また、基本目標を達成するために講ずべき施策の基本的方向を示した上、77項目の具体的施策を位置付け、各施策の効果を客観的に検証できるようにするため、重要業績評価指標（KPI）が設定されている。

秦野市では、都市像を「みどり豊かな暮らしよい都市（まち）」として定め、その実現に向け取り組んでいるところであり、また、秦野市総合計画後期基本計画との一体的な取組みにより、地域資源を生かした活力あるまちづくりを目指している。

今般、国からの要請に基づき、総合戦略に係る内部における進行管理の妥当性及び客観性を担保するため、平成28年度の進行管理から外部評価を取り入れた。

本年度、秦野市行財政調査会 行財政経営最適化専門部会では、これまで3回にわたり総合戦略の4項目のプロジェクト（基本目標）を中心に内部における平成30年度の進行管理の妥当性に係る評価を行い、その進捗状況を確認するとともに、現状の課題や今後の取り組みなどについて協議を行ってきた。

本報告書は、その結果を取りまとめたものである。

今後も効果的な施策を展開することにより、住み続けたい・住んでみたい魅力あふれるまちとなるよう、本報告書の評価を踏まえ、一層の成果達成を期待するとともに、今後の人口減少・少子高齢社会に向け、「行財政経営」の概念をさらに強化し、市政運営に当たられたい。

2 総合戦略について

(1) 総合戦略の構成

ア プロジェクト（基本目標）

国総合戦略が定める政策分野を勘案して、市総合戦略における政策分野を定め、5年後の基本目標（実現すべき成果に係る数値目標KGI^{*}）が設定されている。

イ 講ずべき施策に関する基本的方向

基本目標を達成するために講ずべき施策の基本的方向が示されている。

ウ 具体的な施策と客観的な指標

基本的方向に沿って、具体的な施策を記載されるとともに、各施策の効果を客観的に検証できるようにするため、重要業績評価指標（KPI^{*}）が設定されている。

なお、昨年度実施した外部評価の結果を踏まえ、既に達成された指標を見直し、施策の進捗状況を市民に分かりやすく示すため、平成31年3月にKPIが4項目追加された。

(2) 目標の設定と効果検証

基本目標及び施策ごとにそれぞれ目標が設けられ、評価・検証し、必要に応じて取組内容を見直すPDCAサイクルを重視して、その実効性を高めることとされている。

	目標の設定内容	効果検証時期	効果検証の方法
基本目標	実現すべき成果に係る数値目標（KGI）	計画期間終了後	有識者等による外部評価を経て、必要に応じて、戦略の見直しを行う。
施策	重要業績評価指標（KPI） 検証による見直しもあり得る。	毎年	

※実現すべき成果に係る数値目標（KGI）…Key Goal Indicatorの略称。目標を達成するための指標。

※重要業績評価指標（KPI）…Key Performance Indicatorの略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標。

3 評価の方法について

(1) 自己評価について

秦野市では、各部局において、総合戦略における施策の最小単位である具体的施策77事業の進捗状況について自己評価を行うとともに、基本目標単位でKPIの達成状況を検証し、自己評価の総括が行われている。

なお、各部局における自己評価については、施策ごとに設定している数値目標の達成状況が基準*とされている。ただし、数値目標だけでは効果を測りきれない事業もあることから、課題や取組み状況等を勘案した、総合的な評価となっている。

(各施策における自己評価の区分)

区分		評価の考え方
A	順調に進んでいる	数値目標を達成しており、施策の取組みが順調に進んでいるもの
B	概ね順調に進んでいる	数値目標を概ね達成しており、施策の取組みが概ね順調なもの
C	やや遅れている	数値目標の達成に向けて、施策の取組みがやや遅れているもの
D	遅れている	数値目標の達成に向けて、施策の取組みが遅れているもの

※数値目標の達成状況から次の「基準」で総合的な評価が実施されている。

- ・数値目標の達成状況が100%以上 → A評価を目安に検討
- ・数値目標の達成状況が75%以上100%未満 → B評価を目安に検討
- ・数値目標の達成状況が50%以上75%未満 → C評価を目安に検討
- ・数値目標の達成状況が50%未満 → D評価を目安に検討

(2) 当調査会による外部評価について

4つの基本目標ごとに、市による自己評価の総括の内容が妥当であるか否かの評価を行った。

なお、基本目標の進捗状況を評価するため、K P I の達成状況とともに、具体的施策 7 7 事業についての取組み状況及び自己評価も勘案した。

さらに、総括的な意見についても取りまとめ、総括評価とした。

4 基本目標に対する評価

基本目標 1 豊かな自然・良好な住環境づくりプロジェクト

目的>> 恵み豊かな自然を守り、育てながら、「秦野らしさ」が息づく快適な都市空間を創出し、「行ってみたい、暮らしてみたい」と思われるような魅力に満ちたまちづくりに取り組みます。

【実現すべき成果に係る数値目標（KGI）】

○年間転出超過者数 379人（H26 現状値） → 0人（H31 目標値）

○定住意向（住み続けたい、どちらかと言えば住み続けたいと考えている市民の割合）91.4%（H26 現状値） → 95%（H31 目標値）

KPI（重要業績評価指標）の達成状況

（★は H30 年 3 月、☆は H31 年 3 月に追加した指標）

1 「はだの一世紀の森林づくり構想」の推進

KPI	R1(2019) 目標値	H30(2018) 目標値	H30(2018) 実績値	達成率 H30(2018)
生き物の里での活動回数	55回	55回	65回	118.2%
水源の森林エリアにおける森林整備（奥山を除く）面積	50ha	50ha	103ha	206.0%
植樹際、下草刈、県民参加の森林づくり事業など森林整備事業への市民参加数	1,050人	1,000人	564人	56.4%

2 「水無川「風の道」構想」の推進

KPI	R1(2019) 目標値	H30(2018) 目標値	H30(2018) 実績値	達成率 H30(2018)
カルチャーパーク有料施設等来場者数（年間）	101万人	100万人	101.2万人	101.2%
市道 6 号線の新規右折レーン設置数	1か所	H28 年度完了		達成
★市道 6 号線における歩道（幅員 5m以上）の整備延長	332m	332m	0m	0%

3 まちのコンパクト化と交通ネットワーク形成の推進

KPI	R1(2019) 目標値	H30(2018) 目標値	H30(2018) 実績値	達成率 H30(2018)
秦野駅南口、鶴巻温泉駅南口周辺における都市基盤の整備面積	4.51ha	4.10ha	4.51ha	110.0%
商連に加盟している店舗数（年間）	745店	745店	674店	90.5%

《基本目標 1 に係る具体的施策の自己評価結果まとめ》

基本的方向	区 分		H30(2018)	H29(2017)	H28(2016)
「はだの一世紀の森林づくり構想」の推進	A	順調に進んでいる	3 事業	3 事業	3 事業
	B	概ね順調に進んでいる	3 事業	3 事業	3 事業
	C	やや遅れている	-	-	-
	D	遅れている	-	-	-
小計			6 事業	6 事業	6 事業
「水無川「風の道」構想」の推進	A	順調に進んでいる	4 事業	3 事業	4 事業
	B	概ね順調に進んでいる	3 事業	6 事業	5 事業
	C	やや遅れている	3 事業	-	-
	D	遅れている	-	1 事業	1 事業
小計			10 事業	10 事業	10 事業
まちのコンパクト化と交通ネットワーク形成の推進	A	順調に進んでいる	4 事業	4 事業	2 事業
	B	概ね順調に進んでいる	-	2 事業	4 事業
	C	やや遅れている	3 事業	1 事業	1 事業
	D	遅れている	-	-	-
小計			7 事業	7 事業	7 事業
合 計	A	順調に進んでいる	11 事業	10 事業	9 事業
	B	概ね順調に進んでいる	6 事業	11 事業	12 事業
	C	やや遅れている	6 事業	1 事業	1 事業
	D	遅れている	-	1 事業	1 事業

※事業数 23 事業

市による自己評価の総括

B 概ね順調に進んでいる

具体的施策 23 事業のうち、A 評価（11 事業）及び B 評価（6 事業）の合計は、17 事業であり、KPI も 7 項目中 4 項目で目標値を達成（平均値 97.5%）していることから、施策は概ね順調に進んでいる。

外部評価

市による自己評価の総括は**妥当**である

- ・はだの一世紀の森林づくり事業や水無川「風の道」構想事業は、これからの秦野市の特性を際立たせる重要事業であるため、より力を注ぐ必要がある。
- ・大々的なイベントとして行う植樹祭よりも、秦野の特色を生かした育樹祭を充実させる取組みが望まれる。
- ・プラスチックごみ問題や環境美化などに対する取組みは、市民（地域）との協働により進めるとともに、市民の関心を引き付ける広報について工夫する必要がある。
- ・交付金によるインフラ整備などのハード事業の遅れについては、ソフト面を含んだ改善策の検討が望まれる。
- ・「コンパクト」なまちづくりにおいて、立地適正化計画は重要な役割を占めると考えられるため、策定に向けた動きが加速されることを期待する。
- ・商店会参加店舗数の減少については、事業主の高齢化に加えて小売業の業態変化も原因と考えられるため、加盟店舗数が KPI として適切かどうかという点も含めた検討が必要である。

基本目標 2 未来につながる出産・子育てプロジェクト

目的>> 妊娠、出産から育児までの切れ目ない支援を行うとともに、地域資源を生かした子育て・教育環境づくりや地域、社会全体で子育てを支援する仕組みづくりを進め、子どもたちの未来の創造に取り組みます。

【実現すべき成果に係る数値目標（KGI）】

○合計特殊出生率 1.25（H26 現状値） → 1.42（H31 目標値）

KPI（重要業績評価指標）の達成状況

（★は H30 年 3 月、☆は H31 年 3 月に追加した指標）

1 産み育てる環境づくりの推進

KPI	R1(2019) 目標値	H30(2018) 目標値	H30(2018) 実績値	達成率 H30(2018)
出産前後の子育て教室に参加する家族の人数	450 人	425 人	273 人	64.2%
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合 (1歳6か月児健康診査時調査)	88.0%	87.0%	84.7%	97.4%
★妊産婦新生児家庭訪問の実施割合	95.5%	95.0%	96.9%	102.0%

2 学び育つ教育環境づくりの推進

KPI	R1(2019) 目標値	H30(2018) 目標値	H30(2018) 実績値	達成率 H30(2018)
学校支援ボランティアの協力者数（年間）	2,350 人	2,300 人	1,845 人	80.2%
タブレット型パソコンの導入台数	942 台	564 台	974 台	172.7%
★授業で ICT を活用できる教職員の割合	70.0%	65.0%	68.8%	105.8%
★児童・生徒の授業がわかると回答した割合 (全国学力・学習状況調査)	75.0%	75.0%	74.0%	98.7%

3 子育て応援社会づくりの推進

KPI	R1(2019) 目標値	H30(2018) 目標値	H30(2018) 実績値	達成率 H30(2018)
定員超過により認可保育所等に入所できない児童の数 (4月1日時点)	0 人	0 人	7 人	0%
認定こども園の設置数	8 園	8 園	8 園	100.0%

《基本目標2に係る具体的施策の自己評価結果まとめ》

基本的方向	区 分		H30(2018)	H29(2017)	H28(2016)
産み育てる環境づくりの推進	A	順調に進んでいる	-	-	-
	B	概ね順調に進んでいる	4事業	4事業	3事業
	C	やや遅れている	1事業	1事業	2事業
	D	遅れている	-	-	-
小計			5事業	5事業	5事業
学び育つ教育環境づくりの推進	A	順調に進んでいる	1事業	1事業	2事業
	B	概ね順調に進んでいる	9事業	8事業	8事業
	C	やや遅れている	1事業	1事業	-
	D	遅れている	-	-	-
小計			10事業	10事業	10事業
子育て応援社会づくりの推進	A	順調に進んでいる	2事業	2事業	2事業
	B	概ね順調に進んでいる	2事業	3事業	3事業
	C	やや遅れている	-	-	-
	D	遅れている	1事業	-	-
小計			5事業	5事業	5事業
合 計	A	順調に進んでいる	2事業	3事業	4事業
	B	概ね順調に進んでいる	15事業	15事業	14事業
	C	やや遅れている	2事業	2事業	2事業
	D	遅れている	1事業	-	-

※事業数 20事業

市による自己評価の総括

B概ね順調に進んでいる

具体的施策20事業のうち、A評価（2事業）及びB評価（15事業）の合計は、17事業であり、KPIも9項目中4項目で目標値を達成（平均値91.2%）していることから、施策は概ね順調に進んでいる。

外部評価

市による自己評価の総括は**妥当**である

- ・基本目標2の実現は、基本目標1のKGIにも大きく影響するため、積極的な施策の展開を期待する。
- ・出産前後の子育て教室に参加する家族の人数については、本来どの程度参加率が達成されることが望ましいのかという点も踏まえた見直しが必要である。
- ・周産期医療体制の整備を始めとした産み育てる環境づくりの推進は、市単独で成果を挙げるには少々無理があるため、周辺市との連携の中での対応を考える必要がある。
- ・子育てしやすい環境は市の魅力づくりとなるポイントで、自助・共助・公助の成果が試されるが、本市の子育て環境は、保育施設の充実などの点で、近隣他市と比較しても競争優位にあると思われるため、対外的なアピールを強化していくことも必要である。

基本目標3 安全・安心で人との絆を大切にするまちづくりプロジェクト

目的>> 全ての市民が生きがいを持って、安全で安心して暮らすことができる、人と人との絆を大切にするまちづくりに取り組みます。

【実現すべき成果に係る数値目標（KGI）】

○秦野警察署管内刑法

犯認知件数（年間） 1,211件（H26現状値） → 1,050件（H31目標値）

○要介護等認定率 13.8%（H26現状値） → 15.8%（H31目標値）

KPI（重要業績評価指標）の達成状況

（★はH30年3月、☆はH31年3月に追加した指標）

1 災害・犯罪に強いまちづくりの推進

KPI	R1(2019)目標値	H30(2018)目標値	H30(2018)実績値	達成率 H30(2018)
消費者教室や講座などが受講できる件数（年間）	42件	39件	39件	100.0%
防災講演会等の参加者数	5,700人	5,500人	2,916人	53.0%
空家等対策計画の策定	計画策定	H28年度完了		達成
★木造住宅の耐震相談会の開催回数（年間）	12回	12回	12回	100.0%
★特定空家等の認定件数	0件	0件	0件	100.0%

2 生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進

KPI	R1(2019)目標値	H30(2018)目標値	H30(2018)実績値	達成率 H30(2018)
地域のバランスに配慮した子育て支援センター「ぼけっと21」の数	7箇所	7箇所	8箇所	114.3%
要介護実施者で市内外のグループホームの入居者	153人	149人	195人	130.9%
高齢者の見守りと状況を把握する「在宅ひとり暮らし高齢者等登録」の推進（登録世帯数）	5,600世帯	5,518世帯	5,681世帯	103.0%
★「週1回30分以上スポーツ・レクリエーション活動する市民」の割合	48.0%	45.0%	56.7%	126.0%
☆提案型協働事業の事業評価（達成割合）	89.0%	87.0%	90.0%	103.4%

《基本目標3に係る具体的施策の自己評価結果まとめ》

基本的方向	区 分		H30(2018)	H29(2017)	H28(2016)
災害・犯罪に強いまちづくりの推進	A	順調に進んでいる	4事業	2事業	2事業
	B	概ね順調に進んでいる	1事業	3事業	3事業
	C	やや遅れている	1事業	-	-
	D	遅れている	-	1事業	1事業
小計			6事業	6事業	6事業
生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進	A	順調に進んでいる	5事業	4事業	4事業
	B	概ね順調に進んでいる	5事業	7事業	7事業
	C	やや遅れている	1事業	-	-
	D	遅れている	-	-	-
小計			11事業	11事業	11事業
合 計	A	順調に進んでいる	9事業	6事業	6事業
	B	概ね順調に進んでいる	6事業	10事業	10事業
	C	やや遅れている	2事業	-	-
	D	遅れている	-	1事業	1事業

※事業数 17事業

市による自己評価の総括	B概ね順調に進んでいる
<p>具体的施策17事業のうち、A評価（9事業）及びB評価（6事業）の合計は、15事業であり、KPIも9項目中8項目で目標値を達成（平均値103.4%）していることから、施策は概ね順調に進んでいる。</p>	

外部評価	市による自己評価の総括は妥当である
<ul style="list-style-type: none"> ・他の基本目標と比較して、地域の自治組織の果たす役割が大きいため、市民の納得を得るためにKGIとKPIの関連性（ストーリー付け）を継続して説明していく必要がある。 ・地域の防災力強化のため、地域コミュニティの強化と一体となった取組みの検討が必要である。 ・昨今の台風などによる風水害を受け、市民の関心や不安がどこにあるのかアンケートを実施するなど、地域性も含めた対策を講じる必要がある。 ・空家等対策の推進については、不動産事業者との連携により、不動産の価値があるうちに流通できるような仕組みづくりが必要である。 ・運動習慣のような健康寿命に密接な関係があるKPI指標を充実させ、多面的に分析することが求められる。 	

基本目標 4 にぎわいと交流を創出する地域経済活性化プロジェクト

目的>> 新東名高速道路の供用開始などの本市発展の契機を生かすとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会をきっかけとした新たな「人の流れ」を捉えながら、まちのにぎわいの創出を図るなど、地域経済を活性化するプロジェクトに取り組みます。

【実現すべき成果に係る数値目標（KGI）】

○年間観光客数 206万人（H26現状値）→230万人（H31目標値）
○観光客の年間消費額 9億2,711万円（H26現状値）→10億2,360万円（H31目標値）

KPI（重要業績評価指標）の達成状況

（★はH30年3月、☆はH31年3月に追加した指標）

1 地域資源を生かした活力ある地域づくりの推進

KPI	R1(2019) 目標値	H30(2018) 目標値	H30(2018) 実績値	達成率 H30(2018)
市内企業への就職者数（職業技術校卒業者の市内企業への就職者の人数）	72人	64人	39人	60.9%
シティプロモーションに係る映画「じんじん」応援団ホームページ年間アクセス数	1,000,000件	145,200件	98,671件	68.0%
地産地消サポート協力事業所数	37店	35店	42店	120.0%
☆表丹沢の魅力発信WEBサイトの閲覧件数	52,500件	50,000件	56,608件	113.2%
☆秦野名水ロゴマークの使用件数（累計）	87件	72件	67件	93.1%
☆市内学校給食における秦野産農産物の使用割合	31.5%	30.1%	31.5%	104.7%

2 「秦野SA（仮称）スマートICを活かした周辺土地利用構想」の推進

KPI	R1(2019) 目標値	H30(2018) 目標値	H30(2018) 実績値	達成率 H30(2018)
秦野サービスエリア（仮称）周辺道路の整備率	92%	54%	46%	85.2%
従業員4人以上の事業所の1年間の製造品出荷額等（年間）	4,402億円	4,402億円	5,844億円	132.8%
表丹沢野外活動センター年間利用者数	27,500人	27,000人	18,691人	69.2%

《基本目標 4 に係る具体的施策の自己評価結果まとめ》

基本的方向	区 分		H30(2018)	H29(2017)	H28(2016)
地域資源を生かした活力ある地域づくりの推進	A	順調に進んでいる	8 事業	7 事業	4 事業
	B	概ね順調に進んでいる	2 事業	3 事業	6 事業
	C	やや遅れている	-	-	-
	D	遅れている	-	-	-
小計			10 事業	10 事業	10 事業
「秦野 S A (仮称) スマート I C を活かした周辺土地利用構想」の推進	A	順調に進んでいる	-	1 事業	1 事業
	B	概ね順調に進んでいる	5 事業	4 事業	4 事業
	C	やや遅れている	1 事業	1 事業	2 事業
	D	遅れている	1 事業	1 事業	-
小計			7 事業	7 事業	7 事業
合 計	A	順調に進んでいる	8 事業	8 事業	5 事業
	B	概ね順調に進んでいる	7 事業	7 事業	10 事業
	C	やや遅れている	1 事業	1 事業	2 事業
	D	遅れている	1 事業	1 事業	-

※事業数 17 事業

市による自己評価の総括	B 概ね順調に進んでいる
<p>具体的施策 17 事業のうち、A 評価 (8 事業) 及び B 評価 (7 事業) の合計は、昨年と同様に 15 事業であり、KPI も 9 項目中 4 項目で目標値を達成 (平均値 94.1%) していることから、施策は概ね順調に進んでいる。</p>	

外部評価	市による自己評価の総括は妥当である
<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済活性化の取組みのうち、農林業については、従事者の高齢化という切実な問題を踏まえ、農業支援センターのあり方や J A との連携について、具体的な検討を行う必要がある。 ・市内企業への就職促進については、企業動向にも左右されますが、ターゲットは明確であるため、個別のニーズ把握に努めるなど、引き続き事業を継続する必要がある。 ・環境や景観に配慮しつつ、新東名高速道路の S A やスマート I C を新たな秦野市の玄関口とできるような周辺整備を期待する。 ・表丹沢野外活動センターについては、新東名高速道路の供用開始を契機とした一般利用の拡大を図るため、市外に向けた一層のプロモーションなどが必要である。 	

5 総括評価

5 総括評価

(1) 全体的な評価について

4つの基本目標について、いずれも「概ね順調に進んでいる」とした市による自己評価の総括は妥当であり、平成30年度の実績は全体として、概ね順調に進んでいると評価する。

ただし、KGIを踏まえたKPIの在り方などの課題が見受けられるので、来年度の評価や次期計画の策定に向けての改善が望まれる。

(2) KGIを踏まえたKPIの在り方

ア KPIは、あくまでKGIを達成するための戦略的ツールである。そのため、設定したKPIがその事業本来の目的達成につながるよう、毎年度の効果検証を踏まえ、不断の見直しを行う中で指標を改善するなど、創意工夫に努め、柔軟に運用していくことが必要である。

なお、KGIについては、進捗状況の把握に努め、中間的な評価を行うことが望ましい。

イ その設定に当たっては、数値目標の達成にこだわるあまり、過去の実績を基準として低めに設定するなど、無難な目標設定は避け、KGI（秦野市としてあるべき姿）から逆算した目標値とする必要がある

ウ 重要な取組みであっても、KPIとして数値化できない場合があるなど、制度としての限界を認識する必要もあるが、各目標におけるKPIに優先順位を付け、自己評価の総括にも反映できるような仕組みを検討するなど、積極的な姿勢で活用することが求められる。

(3) 自己評価の質の向上

各部局による自己評価については、数値目標の達成状況を基準に、施策の課題や取組状況等を勘案し、総合的な評価としているが、評価理由が一般的・抽象的な記述となっている例が多く見受けられる。その評価を導いた理由について、特記事項として具体的に記載するなど、市民に分かりやすい工夫が必要である。

